

令和7年度「全国学力・学習状況調査」「とちぎっ子学習状況調査」の結果について（概要）

宇都宮市教育委員会

1 教科に関する調査の結果について

<全体的な状況>

概ね、各学年、各教科において国や県の平均正答率を上回っている。

特に、全国学力・学習状況調査では、小6算数・理科、とちぎっ子学習状況調査では、小4理科、中2社会・数学・理科・英語において、国や県の平均正答率を1.5ポイント以上上回るなど、良好な状況が見られる。

一方で、とちぎっ子学習状況調査では、小5国語において、県の平均正答率を若干下回っている。

<小学校 学年別・教科別の平均正答率の状況>

調査・学年	教科	平均正答率の状況（％）		
		宇都宮市	国または県（＊）	市－国または県（＊）
全国学力・学習状況調査 小6	国語	67.4	66.8	0.6
	算数	60.4	58.0	2.4
	理科	59.0	57.1	1.9
とちぎっ子学習状況調査 小5	国語	65.3	65.6	△0.3
	算数	64.7	64.6	0.1
	理科	62.2	61.6	0.6
とちぎっ子学習状況調査 小4	国語	68.3	68.3	0.0
	算数	55.9	55.4	0.5
	理科	70.5	68.9	1.6

<中学校 学年別・教科別の平均正答率の状況>

調査・学年	教科	平均正答率の状況（％）		
		宇都宮市	国または県（＊）	市－国または県（＊）
全国学力・学習状況調査 中3	国語	54.7	54.3	0.4
	数学	49.6	48.3	1.3
	理科	※ 50.7	※ 50.3	※ 0.4
とちぎっ子学習状況調査 中2	国語	61.6	60.6	1.0
	社会	52.8	50.3	2.5
	数学	46.7	45.2	1.5
	理科	49.5	46.8	2.7
	英語	51.5	48.2	3.3

（＊） 小4・小5・中2においては、県の平均正答率との差を示しています。

小6・中3においては、全国の平均正答率との差を示しています。

※ 中学校理科では、IRT（項目反応理論）に基づき算出したスコアにより結果を表示しています。

＜小学校（小4，小5，小6） 良好な状況や課題が見られる領域等について＞○良好な状況 ●課題

国語	○ 「読むこと」の領域の平均正答率が，小4，小5では県平均をそれぞれ1.2P，1.0P，小6では全国平均を1.1P上回り，良好な状況が見られる。中でも，人物の気持ちの変化を具体的に想像する設問において，小5では県平均を1.9P上回っており，内容を正確に捉えることについて定着が図られている。 ● 「書くこと」の領域において，小4，小5，小6とも，資料から読み取ったことを基に詳しく書いたり，自分の考えを明確にして書いたりすることに課題が見られる。
算数	○ 「データの活用」領域の平均正答率が，小4，小5では県平均をそれぞれ0.6P，0.8P，小6では全国平均を1.8P上回り，良好な状況が見られる。中でも，データを二つの観点から分類整理した二次元表に表したり読み取ったりすることについて定着が図られている。 ● 「数と計算」領域において，計算の意味と仕方についての理解や，小数，分数の仕組みなどを考察することに課題が見られる。
理科	○ 「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率が，小4，小5では県平均をそれぞれ2.3P，1.1P上回り，小6では全国平均を1.9P上回り，良好な状況が見られる。中でも，乾電池の数やつなぎ方が異なる回路のうちプロペラが同じ速さで回転するものを選ぶ設問において，小5では県平均を2.6P上回っており，つなぎ方による電流の大きさなどを捉えることについて定着が図られている。

＜中学校（中2，中3） 良好な状況や課題が見られる領域等について＞

国語	○ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域の平均正答率が，中2では県平均を2.2P，中3では全国平均を3.0P上回り，良好な状況が見られる。中でも，言葉の意味として適切なものを選択する設問において，中3では全国平均を4.8P上回っており，文章の中で使われる言葉の意味を理解することについて定着が図られている。 ● 「書くこと」の領域において，中2，中3とも，複数の資料から読み取った情報を関係付け，根拠を明確にしながら書くことに課題が見られる。
社会	○ 「歴史的分野」の領域の平均正答率が，中2では県平均を3.0P上回り，良好な状況が見られる。中でも，遣唐使の派遣が停止された理由について，唐の勢力の衰えや使節派遣の危険性について述べている文章を選択する設問の正答率は，62.6%で，県平均を3.4ポイント上回る。資料から読み取れる適切な内容を考察することについての定着が図られている。
数学	○ 「データの活用」の領域の平均正答率が，中2では県平均を1.1P，中3では全国平均を3.0P上回り，良好な状況が見られる。中でも，度数分布表から相対度数や累積度数を求める設問において，中3では全国平均を8.7P上回っており，相対度数の意味を理解することについて良好な状況が見られる。 ● 「関数」の領域において，具体的な事象を数学的に解釈し，グラフや式を用いて問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。
理科	○ 「生命」を柱とする領域の平均正答率が，中2では県平均を3.2P，中3で全国平均を1.7P上回り，良好な状況が見られる。中でも，両生類と爬虫類について，身に付けた知識を活用して分類を修正する設問において，中2では県平均を5.7P上回っており，既有の知識を生かしながら，動物を分類することについて定着が図られている。
英語	○ 「聞くこと」の領域の平均正答率が，中2では県平均を2.3P上回り，良好な状況が見られる。中でも，英語を聞き，場所を表す英文を聞き取る設問において，中2では県平均を15.8P上回っており，英語の内容を正確に聞き取ることに定着が図られている。

* 「ポイント」を「P」と表記する。

2 児童生徒質問調査（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市児童生徒の肯定的な回答の割合を示しています。
 （ ）内の数値は、小6・中3においては全国平均との差、小4・小5・中2においては県平均との差を示しています。

○ 児童生徒は、主体的によりよい学級づくりに参画している。

「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている」（全国学力）

小6 87.7% (+4.4P) 中3 89.9% (+5.6P)

「学級活動における学級の話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」（全国学力）

小6 83.2% (+2.4P) 中3 82.9% (+5.6P)

○ 教員や家族に自分のよさを認められていると感じており、自己肯定感が高い。

「先生は、学習のことについてほめてくれる」（とちぎっ子）

小4 90.8% (+1.9P) 小5 90.6% (+1.4P) 中2 87.2% (+3.2P)

「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」（全国学力）

小6 95.1% (+2.9P) 中3 94.9% (+2.7P)

「家の人は、ほめてもらいたいことをほめてくれる」（とちぎっ子）

小4 88.3% (+0.5P) 小5 89.0% (+1.4P) 中2 83.1% (+2.3P)

○ 地域や社会についての関心をもっている児童生徒の割合が高い。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」（全国学力）

小6 83.1% (+1.8P) 中3 79.3% (+4.0P)

「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」（とちぎっ子）

小4 72.4% (+0.8P) 小5 75.2% (+2.5P) 中2 70.1% (+3.7P)

○ 夢や目標について考えている児童生徒の割合は、国や県との差において、おおむね高くなっている。

「将来の夢や目標をもっている」（全国学力・とちぎっ子）

小4 91.3% (+1.3P) 小5 89.8% (+0.8P) 小6 86.0% (+2.9P)

中2 69.9% (-0.8P) 中3 70.9% (+4.1P)

「家の人と将来のことについて話すことがある」（とちぎっ子）

小4 68.1% (+0.7P) 小5 71.7% (+4.3P) 中2 69.0% (+3.3P)

● 自分の考えを文章にまとめて書く学習に、苦手意識がある。

「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しくない」（とちぎっ子）

小4 34.7% (-1.3P) 小5 37.1% (-1.2P) 中2 33.3% (-2.4P)

※令和6年度 小4 33.4% (-1.9P) 小5 34.5% (-1.7P) 中2 32.0% (-2.0P)

※令和5年度 小4 34.7% (-2.5P) 小5 37.1% (-2.6P) 中2 33.8% (-2.1P)



* 「ポイント」を「P」と表記する。

3 学校質問調査（アンケート）の結果について

それぞれの質問に対する本市立学校の肯定的な回答の割合を示しています。
() 内の数値は、「全国学力・学習状況調査」の質問については全国平均との差、
「とちぎっ子学習状況調査」の質問については県平均との差を示しています。

○ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進められている。

「児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力して話し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している」(全国学力)

小学校 100% (+4.7 P) 中学校 100% (+5.0 P)

「授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている」(とちぎっ子)

小学校 89.7% (+0.4 P) 中学校 100% (+11.7 P)

○ 小・中学校が連携して行う取組が、全国と比べてよく行われている。

「近隣等の中(小)学校と、教育課程に関する共通の取組を行った」(全国学力)

小学校 89.8% (+24.5 P) 中学校 100% (+28.3 P)

○ 職場体験活動等の実施により、宮・未来キャリア教育が推進されている。

「職場体験活動を実施している(*5日以上)」(全国学力)

中学校 100% (+92.0 P)

「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしている」(全国学力)

小学校 86.9% (+0.8 P) 中学校 100% (+1.6 P)

○ 保護者や地域と連携・協働する取組が、よく行われている。

「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まった」(全国学力)

小学校 97.1% (+3.8 P) 中学校 96.0% (+7.0 P)

● 調査分析で見られた課題に対する学力調査問題の有効な活用が求められる。

「学力調査後、調査対象学年の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、課題の改善状況を確認している」(とちぎっ子)

小学校 86.8% (-5.6 P) 中学校 76.0% (-7.8 P)

「学力調査後、調査対象学年の1学年下の児童生徒に対して、調査問題を解かせることで、習得状況を確認している」(とちぎっ子)

小学校 78.0% (-3.5 P) 中学校 48.0% (-22.1 P)

「児童生徒に身に付けさせたい力の確認等のために、教員自ら調査問題を解いている」(とちぎっ子)

小学校 92.6% (-3.1 P) 中学校 80.0% (-13.5 P)

● 中学校において、学校内での共通理解をより深めることが求められる。

「小集団で授業研究を行うなど、組織的に授業づくりに取り組んでいる」(とちぎっ子)

小学校 100% (+4.6 P) 中学校 88.0% (+0.3 P)

「授業研究を伴う校内研修の回数 (年間4回以上)」(とちぎっ子)

小学校 76.5% (+0.5 P) 中学校 52% (-0.6 P)

「調査結果の分析を全教職員で行っている」(とちぎっ子)

小学校 100% (+1.2 P) 中学校 76.0% (-14.9 P)

* 「ポイント」を「P」と表記する。

4 児童生徒質問調査（アンケート）と教科の正答率のクロス集計結果について

ー 学力との相関が高い質問についての考察 ー

本市におけるアンケートの結果のうち、正答率が高い児童生徒の方が、正答率が低い児童生徒と比べて肯定的に回答している傾向が見られた項目について分析し、学力に影響すると考えられる児童生徒の取組をまとめました。

正答率が高い児童生徒は、次のことによく取り組んでいる傾向が見られる。

- ・ 課題の見通しを立てて学習に取り組み、振り返って次の学習や実生活に生かすなど、主体的に学習に取り組んでいる。
- ・ 話し合いや発表活動を通して考えを深め、自分の考えを資料や文章を工夫して伝えている。
- ・ 教科等の見方・考え方を働かせながら、習得・活用・探究の学習活動に取り組んでいる。
- ・ 課題解決に向けて自分から取り組み、学習の時間を確保して、計画的に取り組んでいる。

5 全体のまとめ

<まとめ>

教科に関する調査結果について

概ね、各学年、各教科において全国及び県の平均を上回っており、良好な結果が見られた。課題のある教科についても改善傾向にある。各教科等における基礎的事項の理解や、資料から必要な情報を読み取り、内容を把握する技能など、基本的な知識・技能について定着しつつあると考えられる。

質問調査（アンケート）について

書くことへの意識や調査問題の活用において、肯定的な回答割合が県の平均を下回るなど、一部に課題も見られたが、学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組、小・中学校や地域との連携に係る取組を中心に全国及び県の平均を上回っており、概ね良好な結果が見られた。

<良好な結果の要因と考えられること>

- ・ 各学校において児童生徒を認め励ます指導が浸透し、児童生徒が自分のよさに自身をもち、幸せを感じるなど自己肯定感が高い状態で、学習や生活に臨むことができている。
- ・ 各学校において、課題設定を工夫したり、課題解決に向けた話し合い活動を積極的に取り入れたりするなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が進められている。
- ・ 児童生徒の学習の様子を把握し、個に応じた指導を充実させたり、自主的な学習が促進されるよう具体例を示して取り組めるよう課題を工夫しながら家庭学習の習慣化に向けた取組を継続したりするなど、基本的な知識・技能の着実な定着に向けた取組が推進されている。
- ・ 地域学校園において、小・中学校が連携した取組が定着しており、教育課程に関する共通の取組や小中での合同研修の機会を確保するなど、小・中学校で系統性のある指導の実践ができている。

<今回の結果から見えてきた課題>

- ・ 資料から読み取った情報を基に、解釈したり、考察したりすること、思考したことを目的や意図に沿って表現することなどに課題が見られるため、各教科等の特質に応じて言語活動を充実させ、言語能力の育成を図るなど、指導方法の工夫改善が必要である。
- ・ 自分の考えを文章にまとめて書くことについて課題が見られるため、児童生徒の文章を書く力が身に付くよう発達の段階に応じて指導を工夫し、授業中の取組に加えて、授業外や家庭学習の取組など組織的・継続的な取組が必要である。

6 今後の取組

＜ 市教委 ＞

＜ 学 校 ＞

市 の 強 み と し て 更 に 伸 ば し た い と こ ろ

- 本市児童生徒のほとんどが「教職員や家族に自分のよさを認められている」、「幸せな気持ちになることがある」と感じていることを本市学校教育の大きな成果と捉え、児童生徒の自信や自己肯定感を一層育むため、「宮っ子心の教育表彰」など、認め励ます教育を引き続き推進していく。
- 児童生徒一人一人の資質・能力の向上のために、基礎期からのきめ細かな学習指導を推進する。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をより一層推進するため、ICT機器を効果的に活用した学習活動の充実を図り、引き続き、学びのデザインチームでの実践事例を示すとともに、教職員の授業改善の取組を支援していく。
- 各教科等の「小中一貫教育カリキュラム」の地域学校園化・自校化を推進し、本市の4（基礎期）・3（活用期）・2（発展期）の各期のまとまりを生かし、9年間の学びを見通した指導の一層の充実を図る。

認
め
励
ま
す
教
育
の
推
進

「主体的・
対話的で
深い学び」
への授業改善

9 年間の
系統性
ある指導

- 児童生徒理解を深め、日々の学習や生活における児童生徒への積極的な声かけや機会を捉えた称賛などにより、児童生徒のよさや努力を認め励ますとともに、児童生徒同士が互いのよさに気付く活動を引き続き推進し、児童生徒のウェルビーイングの実現に努める。
- 「宇都宮モデル」を活用し、児童生徒が意欲的に学習に取り組み、資質・能力を高めることができるよう、課題の設定、発問や問いかけ等を工夫するとともに、児童生徒が考えを説明したり、意見を交わしたりしながら学び合う学習活動を展開する。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教職員が児童生徒の学びについて理解を深めて授業の質を高め、組織的に授業改善を図っていく。
- 小・中学校共通の重点目標や具体策を検討し、各教科等のカリキュラムの地域学校園化や共通実践に取り組むとともに、各期の児童生徒の学習状況を確認し、その後の指導に生かすことで、更なる指導改善を図る。

今 後 改 善 し た い と こ ろ

- 市定着度調査を含む3つの調査の一体的な分析により、本市の学力向上に係る取組の改善に向けてPDCAサイクルを回すとともに、各学校の実態を踏まえて学習指導上の課題について十分に把握する。CBT調査に向けてMEXCBTの活用を促進する。
- 自分の考えをまとめ、書く力を重点的に育成するため、「書くことキャンペーン」の取組例を周知し、児童生徒が記述する活動を推進していく。各教科の特質に応じた表現・説明・考察などの言語活動の充実を図ることや系統的な指導を実施することについて、研修や学校訪問の機会を捉えて、指導助言を行う。

学
力
調
査
の
活
用

書
く
力
の
育
成

- 国、県、市の調査問題及び調査結果を教職員で分析して児童生徒の状況や学習指導上の成果と課題を適切に把握し、共通理解を図るとともに、課題解決に向けた共通取組を通して指導計画や授業の改善し、組織的に取り組むことにより、学力の向上を図る。また、CBT 調査に対応するためMEXCBTを積極的に活用する。
- 学校全体の共通実践として「書くことキャンペーン」を展開し、国語科を中心とした全ての教科等で、協働的な学びにおける対話を生かし、自分の言葉でまとめて書く活動につなげるなど、書くことの充実を図る。また、発達の段階に応じて授業外や家庭学習においても書く機会を設定するなど、取組を工夫する。